

津島高等学校人権だより 津高人権委員会



ひゅーまんらいつ

令和2年 第4号

第1回人権・同和教育ホームルーム活動報告

今月7月2日に今年度、第1回目の人権・同和教育ホームルーム活動が各クラスにおいて実施されました。各学年の教室では担任の先生や、人権委員、係の生徒を中心に熱心にホームルーム活動に取り組んでいました。みなさんお疲れ様でした！！

1年1組 主題『私たちと人権問題Ⅰ よりよい人間関係をつくろう』

○ 自分自身と他者について考えることで、自分のよさや可能性に気づき、前向きに生きていく力をつける。他者の気持ちを慮り、身の回りの物事に対して正しく判断し主体的な言動を取るようになる。

【皆さんの感想】

- ・ 自分が言われて嫌なことは人に言わないようにして相手の気持ちを考えて接したい。
- ・ 自分の意見を言うことは悪いことではないのだと思った。
- ・ 人とのつながり方が大切だと思った。人を尊重しながら自分の色を出していきたい。



2年1組 主題『人権の歴史に学ぶⅠ 差別はどのようにしてつくられたか』

○ 部落差別の起こりと差別の強化について正しく理解し、差別解消に向けての態度や実践力を養う。

【皆さんの感想】

- ・ 差別をなくすことはとても難しいことだと知っていたけれど、絶対になくさないといけないと思います。今も差別に苦しんでいる人がいるので、もっと差別について学びたいと思います。
- ・ 部落差別についてはもうすでに学んでいて、知っているつもりでしたが、又四郎や世阿弥のことを初めて知りました。部落差別についてまだ知らないことも多くあるのだと思いました。

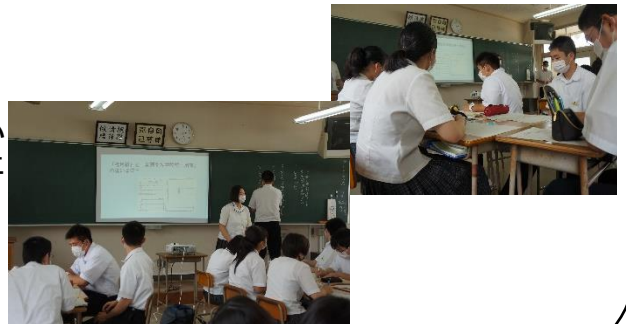


3年1組 主題『人権問題を解決するためにⅠ 確かな進路保障のために』

○ 就職試験や入学試験において不適切な質問について考察し、本人の能力や適性とは無関係な質問事項が差別につながるおそれがあることを知る。そして、正しい判断のもとでの自身の行動が、全ての人の人権を守ることにつながるということを理解する。また差別につながる不適切な質問への対応の仕方を身に付ける。

【皆さんの感想】

- ・ 差別につながるおそれのある質問に対して「答えない」ということは、その会社だけでなく、自分も含めた関わりのある人々の人権意識がより高まることにつながると思います。私たちの勇気ある発言で、企業が差別や人権問題に対して関心が高まれば良いと思います。
- ・ 学ぶことも大切だし、それが本番で実践できることは、より大切だと思うので、一人ひとりが人権について意識を持って面接に臨むことが大切だと思った。



1年生人権委員の人権・同和教育ホームルーム活動の感想を紹介します。

今回、ホームルーム活動を運営してみて、初めてのことがたくさんありました。ここではたくさんの友達の意見を聞くことができました。また、人の前に立って話し合いを進行していく事は考えていたものよりも難しかったです。当日は活動を上手く進行し、前日の打ち合わせ通りに終わることができ、とても有意義なものになったと思います。

1年生人権委員

私たち1年生の人権・同和教育ホームルーム活動の今回の主題は、「私たちと人権問題Iーよりよい人間関係を作ろう」でした。人権・同和教育ホームルーム活動をする前には事前にアンケートを実施しその結果を活用して活動を進めました。授業ではアサーショントレーニングを実施しましたが、その中で自分の考えを抑えずに相手に伝え、かつ自分も相手も大切にするコミュニケーションを取るための学習を行いました。自分はコミュニケーションを取るのが苦手なので、これをきっかけにしっかり取れるようになりたいです。

1年生人権委員

2年生の授業では部落差別についての学習で難しい内容に取り組んでいるなどと思いました。また、3年生の授業では、自分で正しい判断をし、それを行動に移していくという内容でした。とても難しい事ですが、私も勇気を出して行動できるようにしたいと思います。

1年生人権委員

みんなでシトラスリボンプロジェクトを応援しよう！

ただいま、おかえりって言いあえるまちに
みんなで広げよう、
シトラスリボンプロジェクト

Citrus
Ribbon
PROJECT



新型コロナウイルス感染者や医療従事者に対する差別をなくそうと、松山大学甲斐朋香^{かいともか}准教授らが立ち上げた市民グループの運動が「シトラスリボンプロジェクト」です。

コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志がつくったプロジェクトです。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場（もしくは学校）です。「ただいま」「おかえり」と言いあえるまちなら、安心して検査を受けることができ、ひいては感染拡大を防ぐことにつながります。また、感染者への差別や偏見が広がることで生まれる被害も防ぐことができます。感染者が「出た」「出ない」ということ自体よりも、感染が確認された“その後”に的確な対応ができるかどうかで、その地域のイメージが左右されると、考えます。コロナ禍のなかに居ても居なくても、みんなが心から暮らしやすいまちを今こそ。コロナ禍の“その後”も見すえ、暮らしやすい社会をめざしませんか？

- ①シトラスカラー（柑橘をイメージした色）のリボンや紐を準備する。
- ②その材料で「地域・家庭・職場（学校）など」を示す「三つの輪」を作る。
- ③この「シトラスリボン」を身に付けたり、家の玄関、または贈りたい相手に贈ろう！

作り方は
YouTubeで
チェック！

今日の感想

()年()組()番 氏名()

